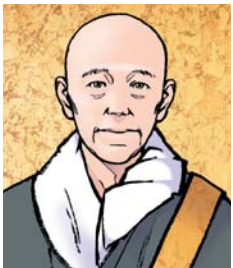


佛立開導日扇聖人物語 第22回



20th Anniversary
創立開導日扇聖人ご生誕200年慶

明治二十二年八月二日の夜、麩屋町（現在の長松寺）にある開導聖人のお館に集まった十人の信者は、命を懸けてご信心に励み、開導聖人をお守りすることを誓いあつたんだ。今日は、この十人の信者さんの会、「信衛連」のお話しをするね。

信衛連の結成

この二日後、再び集まった十人の信者は、開導聖人を先頭に、誓約証（約束をした書き物）を書いて、信衛連と名乗つたんだよ。その信衛連の規則には、仏様、日蓮聖人の教えを守ること。共に助け合つて信心に励むこと、の二つをあげて、この教えを子孫（子供や孫）に残して、信心を衛ることを誓っているんだ。

さらに、仲間が病気になるたらお世話をする。もし、亡くなれば、信心の相続（子供に伝えること）や家のことについて遺族（亡くなった人の家族）に指図（命令する）することまで決められていたんだよ。

また、この信衛連の仕事には、お教務さんや、お役中さん、お導師でも、間違っていたら折伏（間違っていることを正しくする）するとあり、御法門まで審査（テスト）することもあつたんだって。すごいね。

この信衛連とは、開導聖人と生死（人生）を共にする、と願つたご信心の強いご信者の集団であり、「連」とあるのは、開導聖人と一蓮托生（いつでも共に）の決意を表したものだ。十人の信者と役割りは、**順講元**（会のリーダー）、**斎木忠兵衛さん**（勸信組のご信者で、明治十七年には副講師）、**元**（全てのご信者の副代表）となるんだよ。

副役（副リーダー）、**山本太兵衛さん**

大歎組のご信者で、明治十七年には役中頭（全ての役中さんのまとめ役）になるんだ。明治十九年には、お腹に刺さった



10人の強信者が集まり信衛連の誓約証を書く

針が消えるというご利益をいただき、明治二十六年には講元（全てのご信者の代表）にもなるんだ。

副助役（副リーダーを助ける役）、**前川重助さん**

明治十二年ごろは、京都三条に住んでいて、常唱組のご信者だったけど、二十年には中大歎組の組長となるんだ。

取締（会の風紀係）、**榎本武兵衛さん**
東北組のご信者で、後で榎本勸進組を創るんだよ。そして、明治二十六年には副講元になるんだ。

取締助役（風紀係を助ける役）**西村万七さん**
明治十六年に東信行組。明治十八年には常唱組のご信者で、寺町丸太町に家があつたんだ。

鑑札懸（出欠表の係）、**岩井清遠**（定七）**師**
明治十二年一月、開導聖人の七人のお弟子の一人だったんだよ。解行院日光大徳

御講懸（御講などの世話係）、**安田清川**（政七）**師**
明治十九年、開導聖人の十一番目の弟子となつているんだ。解遠院日光大徳
人名書記（出欠表の記録係）**梅原恒二郎さん**
収入懸（会の財務係）**廣瀬傳兵衛さん**
書記（記録係）、**長谷川嘉三郎さん**

後世を託される

明治二十三年三月三十日、開導聖人は自分が死んだ後のことを、お弟子の御牧現喜師（二世講有日聞上人）に、「後の事は頼みます」とお願いされているんだ。そして、信衛連のご信者にも、名前を挙げて「信衛連 山本多（太）兵衛 齊（斎）木忠兵衛の子忠太郎 榎本武兵衛 前川重助 梅原恒二郎 坂本菊二郎等」の人に、後のことは宜しくとお願いされているんだ。そして、このお名前の横には、「全てのご信者の代表ですよ」とあるんだ。だから開導聖人から絶対の信頼を受けておられたんだね。

病氣平癒のお助行

明治二十三年五月、開導聖人がご病氣になられ、九日より麩屋町のお館で静養（しずかに休むこと）されたんだ。しかも、顔に「発したる物あり」とデキモノができたんだよ。これじゃ外に出ることもできないよね。そこで、信衛連の方にお助行を頼まれ、二十三日から一週間続くんだよ。

このようにして、開導聖人のそばでご奉公されていた信衛連だったんだけど、どうとう開導聖人の最後を迎えることになるんだ。この続きは来月で。



明治22年8月2日夜、麩屋町の開導聖人のお館（現・長松寺）で信衛連の結成が決められた